

向陽台地区

令和6年12月7日 （城山公民館講座室）

No.	質問内容	回答
1	住民の高齢化に対応し、地域と行政とともに取り組む事業について、高齢化の進むニュータウンのモデルとしての取り組みを行いたい。	公民連携による稲城市包括支援センターこうようだいのきらぼし銀行稲城向陽台建物への移転にあわせ、多様なつながりによる主体的活動を推進しフレイル・認知症予防を進めております。また、情報拠点を整備し、つながりにより困ったときに身近に相談できるようにする。 地域コミュニティと協働する新しい地域包括支援センターのあり方を模索し、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための核となる人材の育成に地域の方々と一緒に取り組んでいきます。
2	小学校の児童減少を睨み、学校を地域活性化の拠点にする構想について	児童数が減少していても学校が空き教室を少人数授業などで活用している状況です。 また、学校施設であることから、外部の人が自由に出入りするための専用入口や学校区画との区分けを検討していく必要があることから今後の検討課題としていきたい。
3	バスの減少に伴う、利便性の確保について	今回のダイヤ改正の実施経緯につきましては、バス事業者からは、運転手の賃金面などの労働環境から運転手を募集しても必要な人数を確保できないなどを要因とする慢性的な運転手不足と、2024年4月から施行されたバス運転手などに適用される「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」いわゆる「改善基準告示」を遵守する必要があることから、バス事業を維持していくために運転手の確保状況に応じた適正なバスの便数にすることが必要になり実施したものと伺っております。 市では、ご要望いただいたご意見について、地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項について協議を行う、各自治会・各市民団体の代表者、バス事業者、警察などで構成される「稲城市地域公共交通会議」等で協議していきます。